

不登校に対する認知傾向の比較と検討

○岡野竜弥・山崎理央

(福山大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻)

目的

不登校は、いじめやからかい、友人関係・対人関係、学習・知的発達の遅れ、家庭の問題、生活習慣の乱れなどが主な要因として挙げられる。また、これらの複数の要因が複雑に絡み合って生じている場合が少なくない。

本研究では、近年の児童生徒・保護者・子がないその他群がもつ不登校・不登校児に対する認知のあり方を比較し、検討することを目的とする。

方法

参加者 中学生 53 名、保護者 80 名、その他 140 名、回答に不備があった 10 名を除外した計 273 名(平均年齢 : 42 歳, $SD = 17.62$)。

調査方法 インターネット上の質問フォームを用いたアンケート調査を実施した。生徒と保護者を対象とし、広島県内の複数の中学校に QR コードが記載された調査票の配布を依頼した。また 20 歳~60 歳代の者を対象とし、クラウドソーシングサービス上でも回答を募った。

調査内容 (2) ~ (4) は 4 件法で回答を求めた。

(1) フェイスシート

(2) 不登校の原因についての認知

(3) 不登校児の特徴についての認知

(4) 不登校への対応についての認知

分析方法 (2) ~ (4) は統計分析ソフト

HAD18.0 (清水, 2016) を用いて、記述統計量、因子分析、一元配置分散分析を行った。

倫理的配慮 本研究は、福山大学研究安全委員会の承認を得て実施した (承認番号 : 2023-H-31 号および 2024-H-37 号)。

結果

(2) ~ (4) の各設問で因子分析を行い、それぞれ 3 因子構造が認められた。また、生徒群、保護者群、その他群の属性間で不登校の要因に関する認知に差があるのか検討するため、各因子得点の平均値を算出し、一元配置分散分析を行った。その結果、不登校の原因についての認知では、「成育歴」因子の主効果は 5%水準で有意であったが、「環境」因子と「人間関係」因子の主効果は有意ではなかった。そこで「成育歴」因子に多重比較

(Holm 法) を実施した結果、生徒群よりその他群の方が有意に高かった。

Table 1.

不登校の原因の認知の関する 3 群の平均値の差と有意確率

	比較対象		平均値の差	標準誤差	有意確率	95%信頼区間	
	属性 vs 属性					下限	上限
I.環境	生徒	保護者	-0.354	0.159	0.027	-0.668	-0.041
	生徒	その他	-0.279	0.145	0.056	-0.564	0.007
	保護者	その他	0.076	0.127	0.550	-0.174	0.325
II.成育歴	生徒	保護者	-0.239	0.160	0.135	-0.553	0.075
	生徒	その他	-0.370	0.145	0.011	-0.656	-0.084
	保護者	その他	-0.131	0.127	0.304	-0.381	0.119
III.人間関係	生徒	保護者	-0.161	0.157	0.304	-0.470	0.147
	生徒	その他	-0.210	0.143	0.142	-0.491	0.071
	保護者	その他	-0.049	0.125	0.695	-0.294	0.196

不登校への対応について、「再登校の支援」因子の主効果は 5%水準で有意であったが、「寄り添う・受け入れる」因子と「専門機関の紹介」因子の主効果は有意ではなかった。「再登校の支援」因子に多重比較 (Holm 法) を実施した結果、保護者群より生徒群の方が有意に高かった。また生徒群とその他群間で有意差があり、その他群より生徒群の方が有意に高かった。

Table 2.

不登校の対応の認知の関する 3 群の平均値の差と有意確率

	比較対象		平均値の差	標準誤差	有意確率	95%信頼区間	
	属性 vs 属性					下限	上限
I.寄り添い、受け入れる	生徒	保護者	0.057	0.161	0.723	-0.259	0.373
	生徒	その他	0.108	0.146	0.463	-0.181	0.396
	保護者	その他	0.051	0.129	0.694	-0.202	0.304
II.専門機関の紹介	生徒	保護者	-0.029	0.165	0.861	-0.355	0.297
	生徒	その他	-0.106	0.151	0.483	-0.403	0.191
	保護者	その他	-0.077	0.132	0.562	-0.338	0.184
III.再登校の促し	生徒	保護者	0.482	0.156	0.002	0.175	0.788
	生徒	その他	0.370	0.142	0.010	0.091	0.650
	保護者	その他	-0.112	0.125	0.371	-0.357	0.134

考察

原因、特徴、対応の全体的な認知傾向について、生徒群、保護者群、その他群の属性による不登校に対する認知傾向には大きな違いは見られなかった。一方、不登校の原因と対応については、生徒群は保護者群とその他群より、不登校についての知識が限られている可能性が考えられる。例えば対応としては、再登校を促す以外にも、学校以外に通う場所や相談機関があるが、生徒群は再登校の促しを中心的に考えやすい可能性があると考えられる。